政治学原論

＜概要＞

本授業では政治学における基礎的な概念や理論的枠組みを取り扱う。「権力や影響力の行使を伴う人間活動・社会的営み」としての政治には、価値観や正義のあり方をめぐって対立が生じる。個人間の関係から、地域、国家、国際関係に至るまで、様々な文脈で政治現象がどのような形で現れるのかを概観する。なぜ民主主義体制の国と権威主義体制の国があるのか。国家間および一国内で、なぜ経済的不平等が生じるのか。投票に参加する人としない人を分ける要因は何か。なぜ政治暴力や武力紛争が起きるのか。政治学者は長年このような問いを扱ってきたが、必ずしもその全てに明確な答えがあるわけではない。本授業では、政治学において標準的に共有されている理論や分析枠組みを主に扱いつつ、通説の再考を促す近年の研究も紹介していく。

また、価値観や主義主張の対立が根底にある政治現象を対象とする学問であるからこそ、科学的・実証的に分析することに重点を置く。単なる印象論や規範的な政治的主張から距離を置き、論理的で生産的な学問的議論を行うための考え方を紹介する。本授業を通して社会科学、ひいては現実社会の諸問題に取り組む際に有用となる、応用可能な論理的思考力を身につけることを目指す。

＜到達目標＞

- □ 政治学で用いられる基礎概念と分析枠組みを理解する。
- □ 国家、政治体制、選挙制度、政党システム、代表、政治参加、拒否権プレイヤーなどの概念を理解・説明できるようになる。
- □ 政治現象に関する理論や実証研究を、論理的・批判的に検討する力を養う。

＜授業計画＞

1	政治学と科学
	「政治」とは何かを、権力と対立の観点から定義する。その手がかりとして、ハーシュマンの「離脱・発言・忠誠（Exit, Voice, and Loyalty）」モデルを紹介する。また、政治現象を科学的アプローチで分析することの重要性を議論する。
2	近代国家の成り立ち
	近代国家の形成を、社会契約論と『略奪国家』の考え方から議論する。
3	政治体制の分類について
	民主主義体制と権威主義体制に関する複数の定義と測り方を紹介する。
4	経済発展と民主化
	近代化論の主な主張とその実証研究を概観する。その批判である Przeworski の「生き残り理論」や、自然資源の存在や植民地支配などの歴史的背景が今日まで及ぼしている影響の可能性を考える。
5	政治体制と経済成長
	現代の民主主義国は、経済発展の水準が高い傾向にあるが、「民主主義体制は経済成長を促すのか」という問いを議論する。数十年前に提唱されていた理論が、中国やシンガポールなどアジア諸国の発展を説明できるか検討する。
6	権威主義体制の種類
	一括りに「権威主義体制」と言っても、その制度・安定性は国ごとで大きく異なる。既存研究が提唱してきた分類法と、その代替として構築された「権力支持基盤理論」を議論する。
7	民主主義と集団意思決定

	コンドルセのパラドックス（投票の逆理）とアローの不可能性定理を紹介し、社会的選択理論の観点から民主主義の限界を議論する。その上で民主主義体制間に存在する制度的相違点を考える。
8	選挙制度の種類
	多数代表、比例代表、混合制度など、選挙方法にはいくつかの種類が存在する。また得票数が議席数に変換される際にも、その計算式によって結果が大きく変わる可能性がある。様々な制度的特徴とその影響を議論する。例として日本の1993 年の選挙制度改革を議論する。
9	社会的亀裂と政党システム
	国によって政党の数やそれぞれの議席数は大きく異なる。政党政治の様相におけるバリエーションを社会的亀裂と選挙制度の相互作用の観点から検討する。重要な概念としてデュベルジェの法則を紹介する。
10	選挙と投票
	なぜ投票率は多くの先進国において減少傾向にあるのか。なぜ国によって異なるのか。教育は本当に投票率を上げるのか。合理的選択論と政治制度論の知見を組み合わせて検討する。
11	拒否権プレイヤー
	なぜ国によって政治・政策の安定性・変化の度合いが異なるのか。Tsebelis の拒否権プレイヤー理論を用いた説明を議論する。国家間比較だけでなく、国連の安全保障理事会での意思決定への応用も議論する。
12	グローバル化：国内政治と国際関係
	国境を越えるヒト・モノ・カネの移動は加速度的に増している一方、それによって生じる経済的・文化的衝突は一国の政治制度では解消できない場合が多い。グローバル化が引き起こす問題に対する国内の反応と国際機関などによる取り組みを紹介する。
13	経済格差と民主主義
	政党、選挙制度、特定の選好を持つ有権者の地理的分布に着目し、国内の経済格差を議論する。
14	政治家、官僚制、利益集団
	政治家は有権者を本当に代表しているのか。特定の利益団体が有権者以上に影響力を持っている可能性はあるか。政治家・政治エリートの社会人口学的特性や、利益団体の存在に着目し代表民主制の前提を再考する。
15	「制度外」の政治について
	投票参加だけが政治参加の形ではない。デモやテロ、内戦の制度的要因を議論する。

＜成績評価基準＞

小テスト 3 回（30%）：直近の授業で扱った内容の説明とその応用力を評価する。

期末筆記試験（70%）：持ち込み不可の論述問題。授業到達目標に到達できているかを評価する。

＜参考文献＞

Acemoglu, Daron, and James A. Robinson. 2006. *Economic Origins of Dictatorship and Democracy*. Cambridge: Cambridge University Press.

Clark, William Roberts, Matt Golder, and Sona Nadenichek Golder. 2024. *Principles of Comparative Politics*. 4th ed. Washington, DC: CQ Press.

Przeworski, Adam, and Fernando Limongi. 1997. “Modernization: Theories and Facts.” *World Politics* 49(2): 155–83.

Tsebelis, George. 2002. *Veto Players: How Political Institutions Work*. Princeton: Princeton University Press.

その他、適宜紹介する。